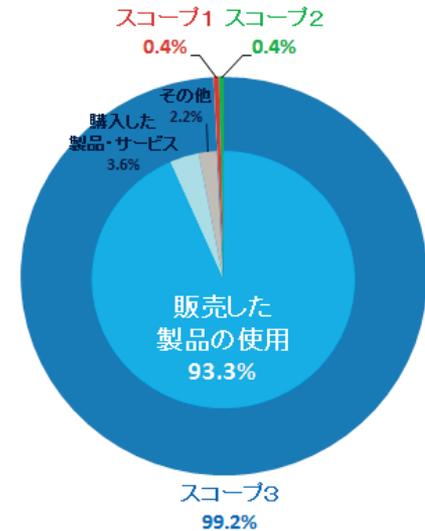


	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● TOTOグローバル環境ビジョンにおいて、地球温暖化防止を重点分野の一つとしてCO2排出量の削減に取り組んでいる。● 地球環境保全、温室効果ガスの排出量削減に向けて、Scope1, 2のみならず、サプライチェーン全体での削減が求められ、CDPなどのSRI調査においても、Scope3を含めた排出量の開示、削減が求められている。それらに対応するため、算定を実施。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーン全体の排出量を把握し、削減に向けて、効果的な削減の検討や、対策の効果確認に活用。● 外部からの調査の回答や、ホームページ、コーポレートレポート等で算定結果を公開。
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 排出量削減の方向性を明確にできる。● 排出の詳細が明確になることで、削減対策や、さらなるデータ精度の向上に向けて関連する部門や取引先等に協力を求めやすい。● 外部からの開示要求に対応可能。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 関連部門にデータ提供、算定等の協力を得ながら、ESG推進部が主管部門として算定を推進。

各社の考え方

□ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて

- TOTOの事業活動は、販売した製品の使用時のCO2排出量の割合が非常に大きいという特徴があるため、節水、省エネ製品の開発、販売促進することで、使用時の排出量の削減を行っている。
- 生産工場において、高効率機器への更新やLED照明の導入、太陽光発電設備の設置等の取り組みを実施。オフィスやショールームでも、照明器具のこまめなON・OFFや空調負荷の軽減、省エネタイプの自動販売機の使用等に取り組んでいる。
- その他、社有車のCO2削減や廃棄物の減量化・再資源化、包装材料の削減、輸送燃料の削減等の取り組みも実施している。



サプライチェーン排出量算定結果
(国内2013年度)

□ サプライチェーン 排出量算定の 課題

- 活動量の把握が困難なものがあったり、活動量を把握できても、適切な排出原単位が存在しない(特に海外)など、正確性・網羅性の追求に限界がある。
- 関連のあるカテゴリは全て算定したが、全体の1%にも満たないカテゴリまで負荷をかけて毎年算定すべきか疑問。効率的かつ効果的な算定、削減を目指したい。

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<直接調達> ● 原材料・資材の調達量 <間接調達> ● 直接調達による排出量、購買実績から算定	● 各種原単位データをもとに設定した当社原単位DB
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● 原単位DB*
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料・エネルギー使用量	● CFP基本DB ● 原単位DB*
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	<調達輸送> ● 調達重量とシナリオ設定により算定(国内) ● コンテナ数、調達重量、出荷国のデータをもとに既存算定ツールにて算定(海外→国内) <出荷輸送> ● エネルギー使用量(原油換算値)	<調達輸送> ● 原単位DB* ● 国土交通省 算定ツール使用値 <出荷輸送> ● エネルギー使用量当たりの原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● 原単位DB*
カテゴリ6「出張」	● 従業員数	● 原単位DB*
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 勤務形態・都市区分別従業員数	● 原単位DB*
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● TOTOグループ内の問屋、小売店での排出量、売上高をもとに原単位を設定し、外部の問屋、小売店での排出量を算定	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 主要商品の排出量、販売量、使用期間をもとに原単位を設定し、全販売量から算定	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 主要製品の廃棄物種類別重量×販売量	● 原単位DB*
カテゴリ15「投資」	● 投資先のScope1,2排出量に当社保有率を乗じて算定	